



鶏けいめい鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

イエスの言葉

『わたしはぶどうの木

あなたがたはその枝である。

人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ』

聖書(ヨハネ福音書15章5節)

牧師 河合裕志

ぶどうはカスピ海南沿岸が原産地とか。地中海世界では早くから栽培。イエスの国でも古くから果樹として植えられていた。実は生のまま食べたり干しぶどうにしたりぶどう酒にしたりと経済価値は高かった。それは貴重であり豊かさ、生命のシンボル。

旧約聖書にはしばしばイスラエルがぶどうの木にたとえられている。神が大地にぶどうの木を植えるようにこの民を植えた。そして神の民として良いぶどうの実を結ぶことが期待されたけれど残念ながらそうは行かず、酸っぱい実を結ぶに至る。それはこの民が他の神々に誘われたことを言っている。

そんな折、イエスはぶどうの木だと、自分は神によって植えられた真のぶどうの木だと主張。それは私から新しい神の民が生まれて来ると言いたいのだろう。

確かにこれは言えるかも。イエスをぶどうの木としてその後その枝、ブランチは伸びに伸び全世界をおおうにまで至っている。それは新しい神の民としてのキリストの教会ということ。

ここでイエスは「つながり」ということをやたら強調している。人よ、わたしにつながっていてほしい、つながっていればその人は豊かに実を結ぶ。『わたしにつながっていないければ、実を結ぶことができない』。

それはそうだろう。ぶどうの木、幹につながっていないければ水分や栄養分がこないでその枝は実を結ぶどころか無残にも枯れ果ててしまう。

ぶどうの木、イエスにつながっているとはどんな状態・有様を言う？ このあとの7節で『わたしの言葉があなたがたの内にいつもあるならば』とイエスは言っている。イエスの言葉が私の内にいつもあるということだろう。その二は9節で言っているとこにヒントが。『私の愛にとどまりなさい』。イエスの私への愛、それは自身を犠牲とする「十字架の愛」に極まっているけれどこの愛をいつも覚えていることがイエスにつながるということなんだ。

そしてその人は豊かに実を結ぶとは何？ それはイエスの言葉と愛によって促されるイエスへの信仰であり人への愛ということでない？ 信仰と愛というカルポス、フルーツこそ願わしい。イエスよこの実をわれらに。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

求道者会：日曜日午前9時40分

中高青年会：日曜日礼拝後

お話し会、卓球：水曜日午後1時～7時

お祈り会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時